

4. 令和元年に新たに発生を認めた病害虫

令和元年に道内で新たに発生を認めた病害虫数は、17（病害7、害虫10）でした。その一部を抜粋して紹介します。

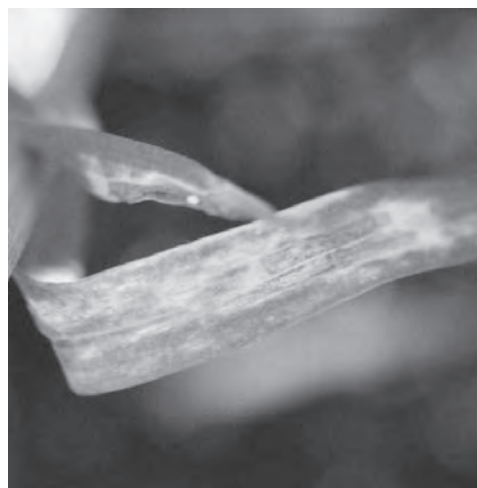
（1）小麦のミドリハダニ（新寄主）

秋まき小麦が寄生されると、下葉に *Microdochium nivale* による葉枯症状と酷似した白色～褐色の斑紋を生じます。発生場所は、ほ場周縁部に集中します。

（2）ばれいしょの黒あし病（病原の追加）

茎基部の黒変腐敗や茎葉の萎凋など、黒あし病に類似した症状を呈するばれいしょ株から、国内で本病の病原菌として知られている既知の4種とは異なる性状を示す菌が分離され、同定した結果、*Dickeya chrysanthemi* (Burkholder) Samson であることがわかりました。

病徴から、菌種を区別することはできません。



ミドリハダニによる小麦の被害葉

【補足】「特に注意を要する病害虫」および「新発生病害虫」の詳細な情報については、北海道病害虫防除所のホームページに掲載していますので、そちらもご覧ください。

（成績名：令和元年度の発生にかんがみ注意する病害虫）

もう少し詳しい情報はこちら

検索は、「農業技術情報広場、一般課題R 1」で



本技術内容についての問い合わせ先

道総研十勝農業試験場

電話（0155）62-2431

E-mail：tokachi-agri@hro.or.jp